

たつの市新宮地域
小中一貫校建設基本設計
基本設計書概要版

令和6年8月

たつの市

■基本方針

小中一貫教育に関する基本方針

本市では、「たつの市小中一貫教育基本方針」を令和4年10月に策定し、児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるように小中一貫教育の取組を進めていくことを示しています。

『基本理念：小中一貫で培う 子どもの「学び」と「育ち」』

たつの子どもが、幅広い知識と柔軟な思考に基づき、創造力を培うとともに、確かな学力を向上させ、豊かな心や健やかな体を育むことができるよう、小中一貫教育を推進していきます。また、幼児期からの「学び」と「育ち」を『小中一貫』へと円滑につなぐことで、こども園・保育所、小学校、中学校とが同じ目標に向かって、子どもによりそいながら取組を進めていきます。

■整備コンセプト

①新しい時代の学びに対応する、高機能化した学校づくり



- ・小中一貫校として、幅広い学齢の児童・生徒が日常的に異学年との交流を図ることができるとともに、小中学校の教職員が一貫した教育を行うための施設
- ・一定規模の児童生徒の集団生活の中で、コミュニケーション能力、自尊感情や自己有用感を育み、協働的な学びを実現する学校
- ・情報・英語・キャリア教育など小中一貫教育の充実や学び・育ちの連続性を確保できる学校
- ・新学習指導要領への対応やICTの活用により、子どもの情報活用能力の向上と将来にわたる変化に対応できる学校
- ・読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備

②安心して過ごせる生活環境、災害時にも安全な防災拠点の確保



- ・ユニバーサルデザインの導入やインクルーシブ教育の推進により、誰もが過ごしやすい学校
- ・教職員、保護者、地域との協働により、多くの大人たちの目が行き届き、児童生徒が安心して過ごせる環境
- ・たつの市、新宮町の豊かな自然環境を活かした生活・学習環境
- ・教職員の働く場としての機能向上により、児童生徒への教育・指導に集中できる職務空間
- ・耐震性の確保、浸水時にも安全な避難所など、防災機能の強化により、児童生徒や教職員、地域住民の安全が確保された学校

③地域に開かれた、新宮地域の核となる学校づくり



- ・新宮スポーツセンター、新宮図書館や埋蔵文化財センターなど周辺施設との連携や利活用による積極的な地域開放、文教ゾーンの形成
- ・既存各校の教育活動の特色や地域の伝統等を継承し、自分たちのふるさとを大切に、新しい学校を自分たちで作上げていこうとする気持ちを醸成することができる学校
- ・セキュリティに配慮しながらも開放的な、地域住民に親しまれる学校
- ・新宮こども園との幼小中連携や児童生徒や教職員、地域住民など、多世代・多様な交流を生み出す環境
- ・伝統文化や産業、自然等のふるさとの素晴らしさと触れる機会を充実させるとともに、ICT技術を活用した交流学習を推進

④環境に配慮した学校づくり



- ・脱炭素化の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現できる学校
- ・省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を積極的に行う学校
- ・児童生徒が環境教育を通して、環境保全への意識を醸成することができる学校
- ・地域題材を活かした環境体験など、環境教育を通して地域やふるさとを愛する心を育む学校

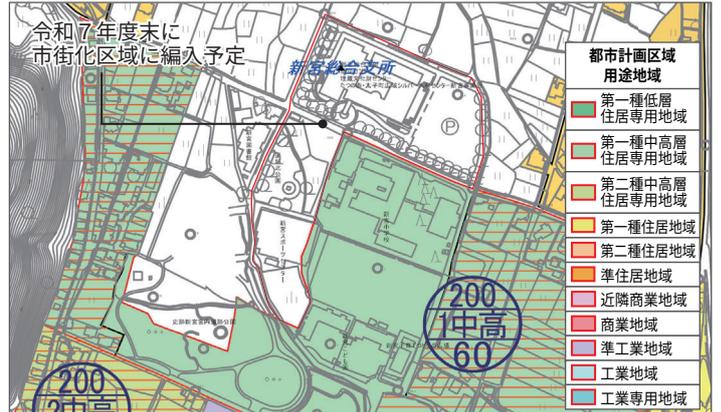
敷地・建物概要



項目	内容
所在地	兵庫県たつの市新宮町新宮地内
敷地面積	38,685.9 m ² (学校敷地: 32,886.9 m ² / こども園敷地: 5,799.0 m ²)
前面道路(北)	新宮小学校線(第42条第1項1号道路)(最小幅員6.5m/最大幅員10.0m)
前面道路(東)	新宮3号線(第42条第1項1号道路)(最小幅員5.4m/最大幅員9.3m)
前面道路(南西)	新宮宮内線(第42条第1項1号道路)(最小幅員4.0m/最大幅員9.2m)
前面道路(西)	宮内13号線(第42条第1項1号道路)(最小幅員6.0m/最大幅員7.6m)
ハザードマップ	洪水土砂災害: 洪水浸水想定区域 3.0~5.0m
土砂災害警戒区域	該当せず
地区計画	該当せず
公園誘致圏	該当
都市機能誘導区域	該当
都市計画区域	都市計画区域/市街化区域、市街化調整区域(市街化区域に編入予定)
用途地域	第1種中高層住居専用地域、用途地域の指定なし (編入後 給食センターおよび公園: 準工業地域 現スポーツセンター: 第1種中高層住居専用地域)
建蔽率	60
容積率	200
道路斜線	勾配1.25 適応距離20m
隣地斜線	勾配1.25 適応距離20m
日影規制	4h(5~10m)・2.5h(10m~) (測定面4m)
高度地区	なし
防火地域	なし

項目	内容
建築面積	9,197.4 m ² (校舎棟: 約6,327.4 m ² / 第1体育館: 約2,870 m ²)
延床面積	16,798.7 m ² (校舎棟: 約13,148.7 m ² / 第1体育館: 約3,650 m ²)
建蔽率	23.7%
容積率	43.4%
規模	地上3階建
建物高さ	16.85m
構造	RC造、SRC造、S造

都市計画図



■設計コンセプト

子どもの主体的で多様な「学び」を生む 新宮地域の新たな核となる小中一貫校

自然豊かなたつのの風景を大切にするとともに、統合する6校の歴史・文化・想いを継承しながら、子どもたちが安全にのびのびと学校生活を送ることができる環境を整備します。

建物全体から家具に至る細部まで、児童生徒・教職員の各視点で計画し、子どもたちが主体的に学べる豊かな学習空間を様々に設えます。

新たな地域の拠点として、子どもたちだけでなく地域からも愛される学校を計画します。

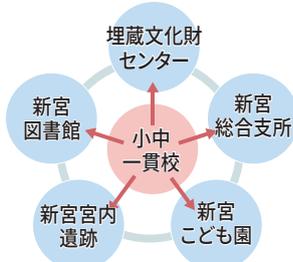
① 統合する6校の歴史を継承する

6校の歴史・文化・想いを継承し、ふるさとを愛する心を育むことができる学校とします。



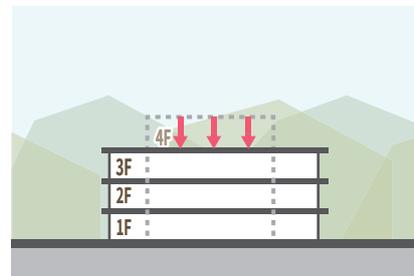
② 文教ゾーンを包み込む小中一貫校

新宮地域の文教ゾーンにおいて、学校が地域にとって交流と学びの中心施設となるよう計画します。



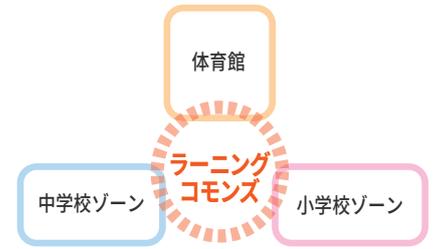
③ たつのの風景に呼応する のびやかな3層構成

周囲の風景に呼応した東西にのびやかな平面計画とし、誰もが使いやすい3層構成とします。



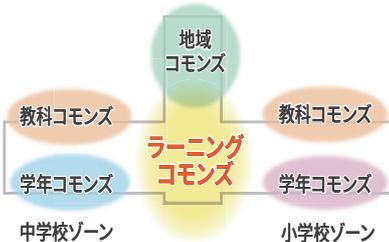
④ 小学校・中学校を明快に わけたシンプルな平面構成

ラーニングcommonsを中心に東西に小中のゾーンを分け、北側に体育館を配置したシンプルで明快な平面構成とします。(※commons:集う・共有する空間)



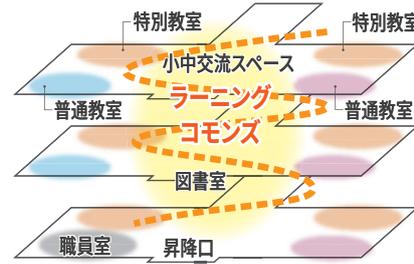
⑤ 4つのcommonsの まとめりと連携

ラーニングcommons・学年commons・教科commons・地域commonsの4つのcommonsが連携する計画とします。(※commons:集う・共有する空間)



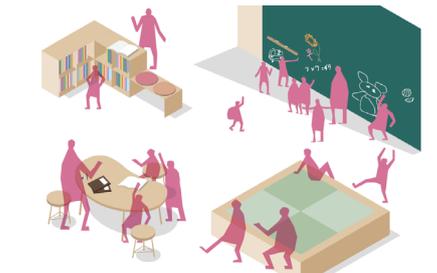
⑥ 学習の中心となる ラーニングcommons

学校の核となるラーニングcommonsが断面的につながり、児童生徒の好奇心、探求心を育みます。



⑦ 主体的で多様な学びを 誘発する居場所や仕掛け

大きな黒板や可動家具などにより様々な居場所をつくり、多様な学習形態に対応します。



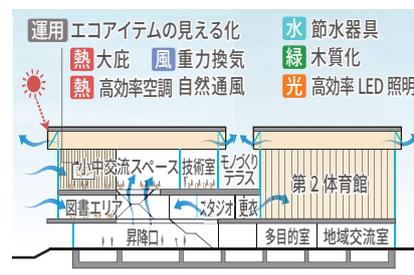
⑧ 自然豊かな新宮地域に ふさわしい緑豊かな学びの場

ビオトープやプレイグラウンド、学校菜園を設け、豊かな屋外学習空間を計画します。



⑨ たつのの未来をつなぐ 環境に配慮した学校

屋根やバルコニーによる日射遮蔽、自然採光・自然換気により環境に配慮した計画とします。



⑩ 新宮地域の新たな拠点 となる開かれた学校

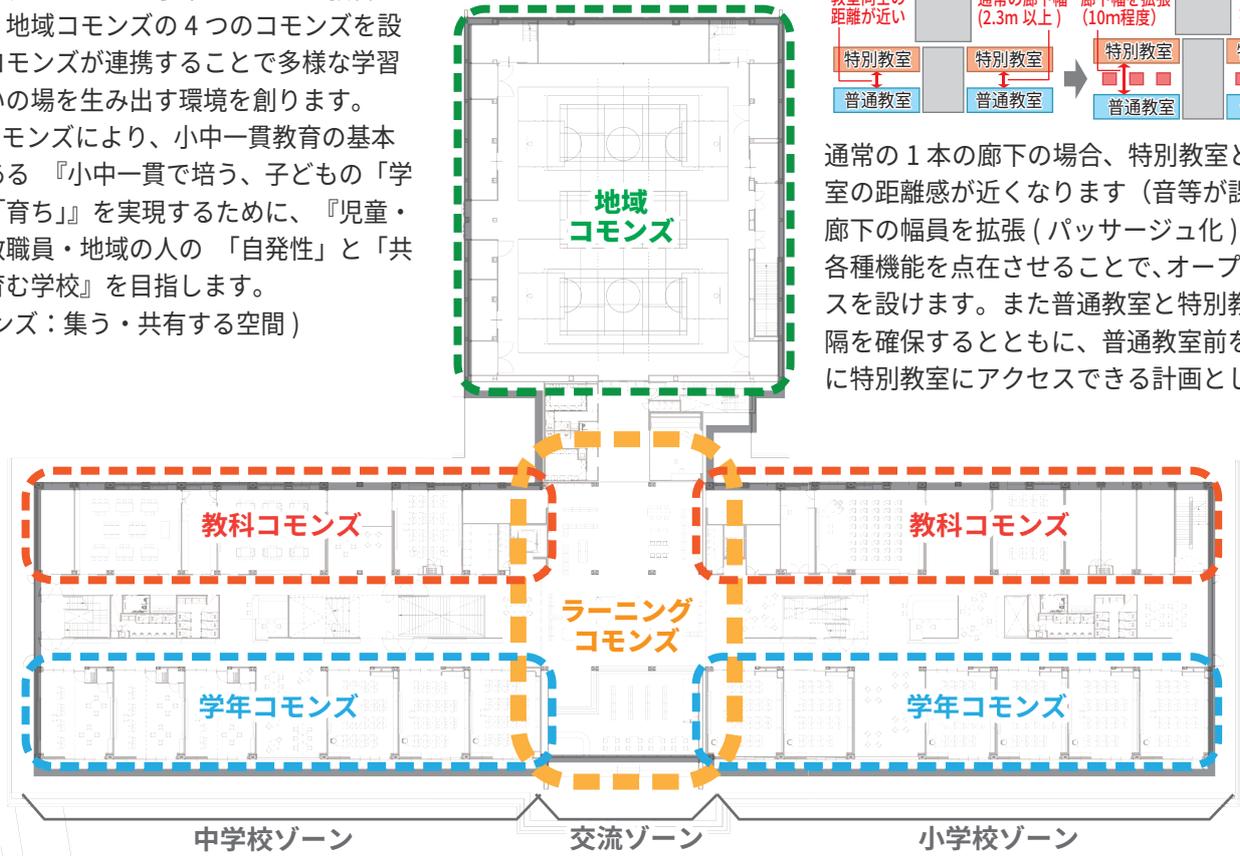
地域とのつながりを継承した活動を行うなど、地域に開かれ地域から愛される学校とします。



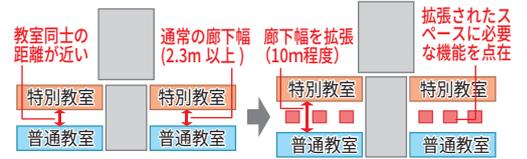
■平面計画

ゾーニング・4つの commons

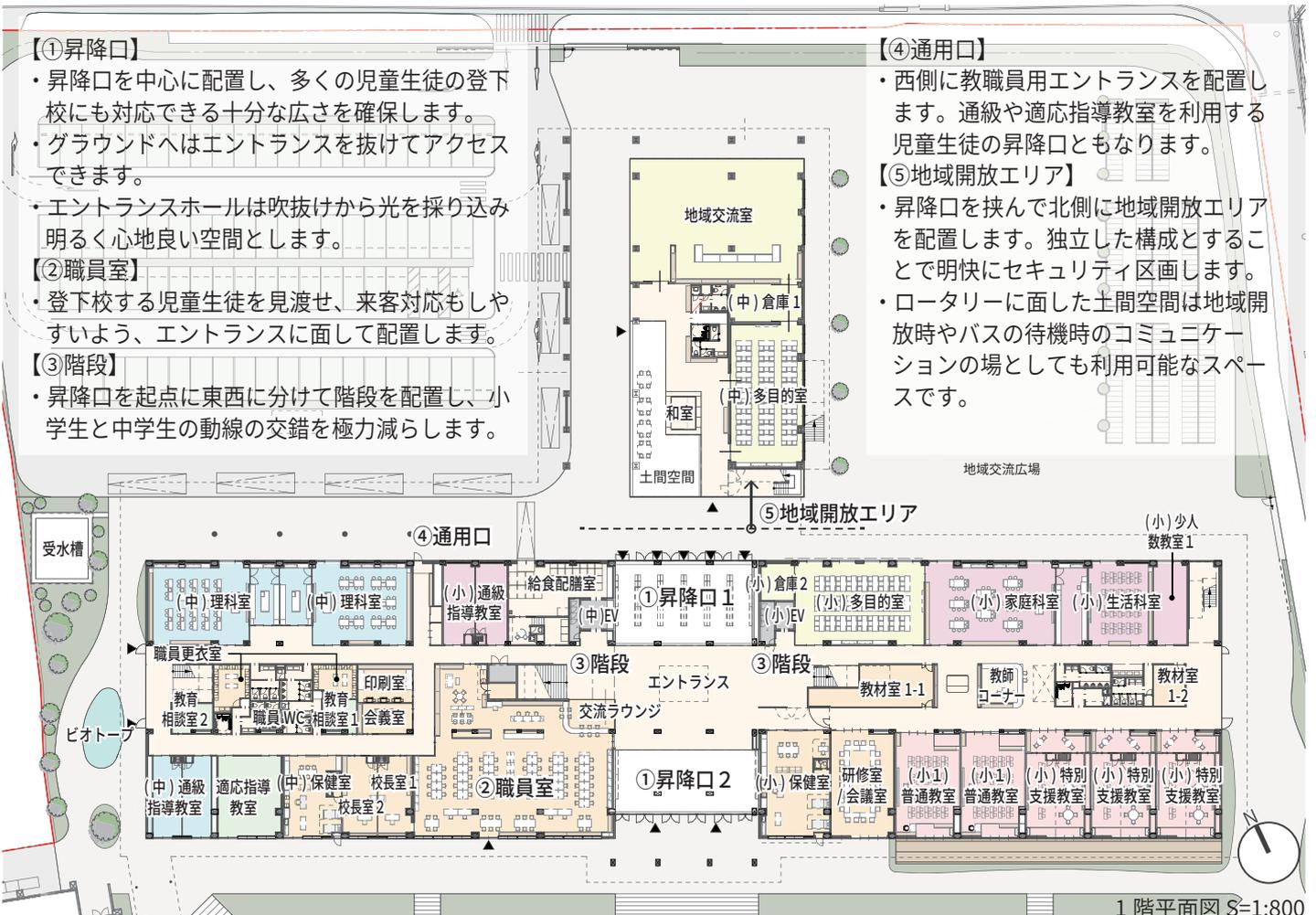
ラーニング commons・学年 commons・教科 commons
 commons・地域 commons の4つの commons を設け、各 commons が連携することで多様な学習や出会いの場を生み出す環境を創ります。
 4つの commons により、小中一貫教育の基本理念である『小中一貫で培う、子どもの「学び」と「育ち」を実現するために、『児童・生徒・教職員・地域の人の「自発性」と「共感」を育む学校』を目指します。
 (※commons: 集う・共有する空間)



パッサージュ型



通常の1本の廊下の場合、特別教室と普通教室の距離感が近くなります(音が課題)。廊下の幅員を拡張(パッサージュ化)して、各種機能を点在させることで、オープンスペースを設けます。また普通教室と特別教室の距離を確保するとともに、普通教室前を通らずに特別教室にアクセスできる計画とします。

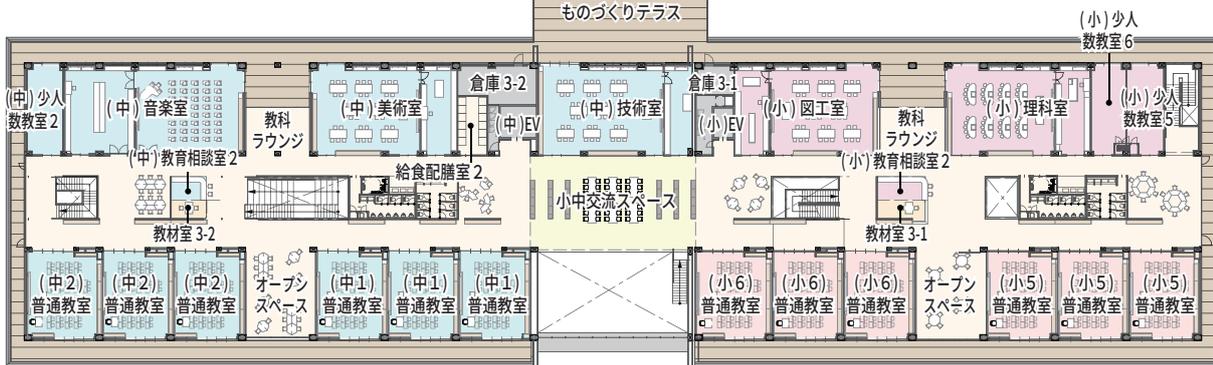
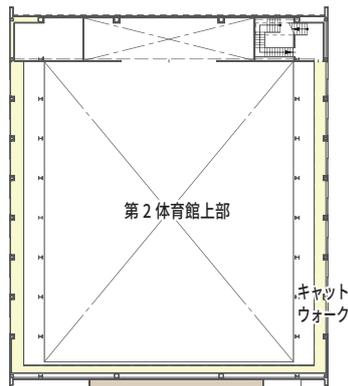
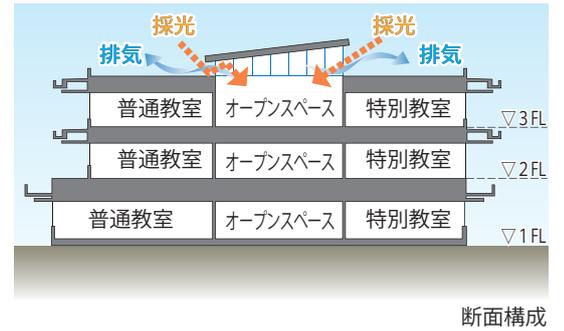


【オープンスペース】

- ・オープンスペースにはハイサイドを利用して採光を確保しつつ、頂部より排気が可能となる計画とします。

【アート＆クラフト】

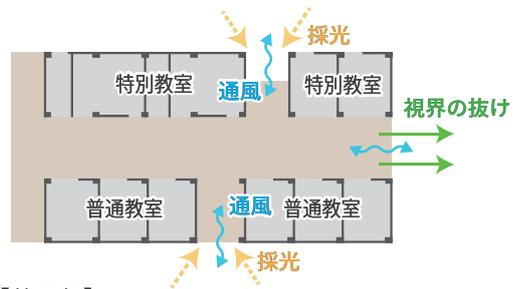
- ・技術室、美術室、図工室を近接させ、アート＆クラフトのまとまりを強化するとともに、北側にもづくりテラスを設けます。



3階平面図 S=1:800

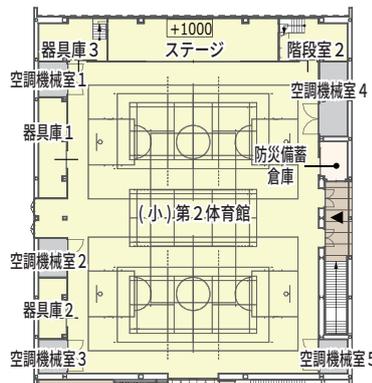
【オープンスペース】

- ・小中ともに学年コモンズおよび教科コモンズに1スパン分のオープンスペースを確保します。中央の共用部に光と風を届ける役割を担います。



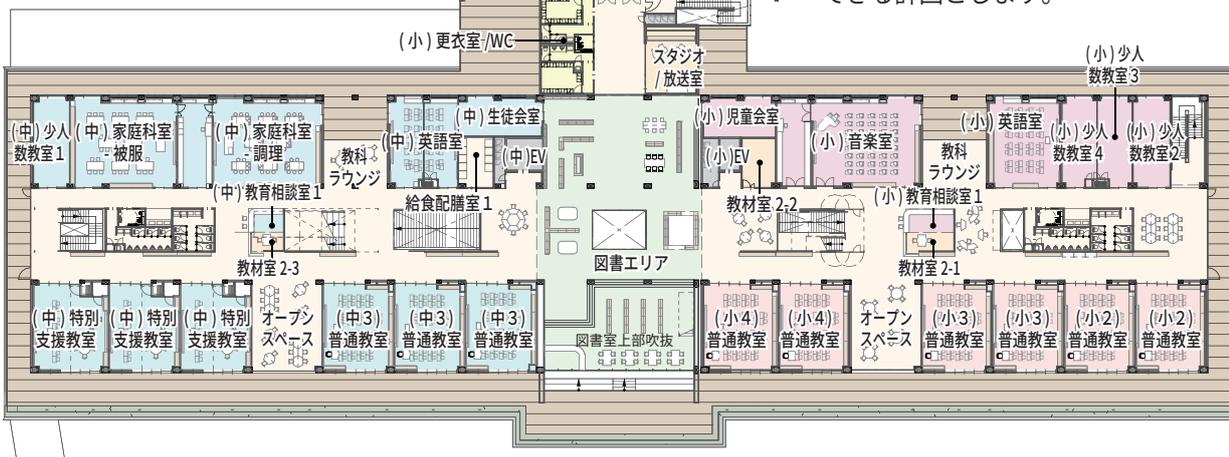
【第2体育館】

- ・第2体育館は北側中央に配置します。トイレや更衣室もまとめて配置し、地域開放しやすい計画とします。
- ・体育館は屋外からも直接アクセスできる計画とします。



【共用部】

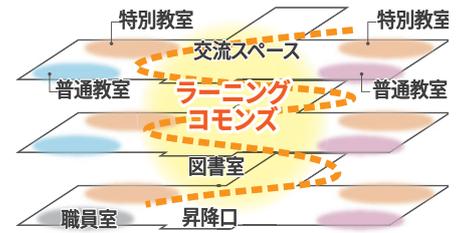
- ・校舎共用部東西面は長い通路の開鎖感を抑えるために開放的で風も抜ける計画とします。
- ・四周にバルコニーを設置し、多方向へ非難が可能な計画とします。2階のバルコニーは下階の屋上を利用して広めに確保し、様々な活動に利用できる計画とします。



2階平面図 S=1:800

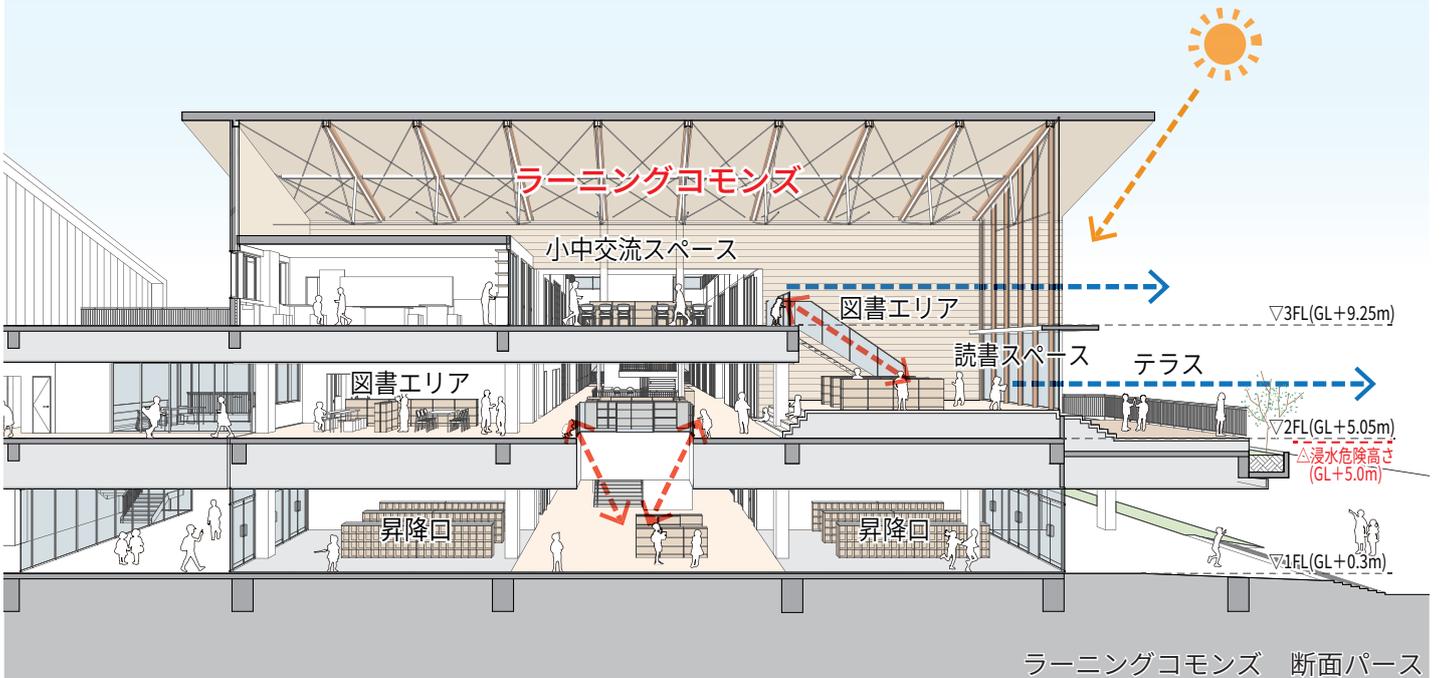
■断面計画

- 学校の核となるラーニング commons は3層にわたり有機的につながる構成とします。
- 普通教室や特別教室と連携しながら児童生徒の好奇心・探求心を育み、主体的な学びが連鎖することで、交流・協創の意識を高める空間を目指します。
- 本敷地は想定最大降雨による浸水深さが3～5mのエリアとなっています。避難スペースとして利用する第2体育館を設置する2階フロアが浸水エリアとならないような計画とします。



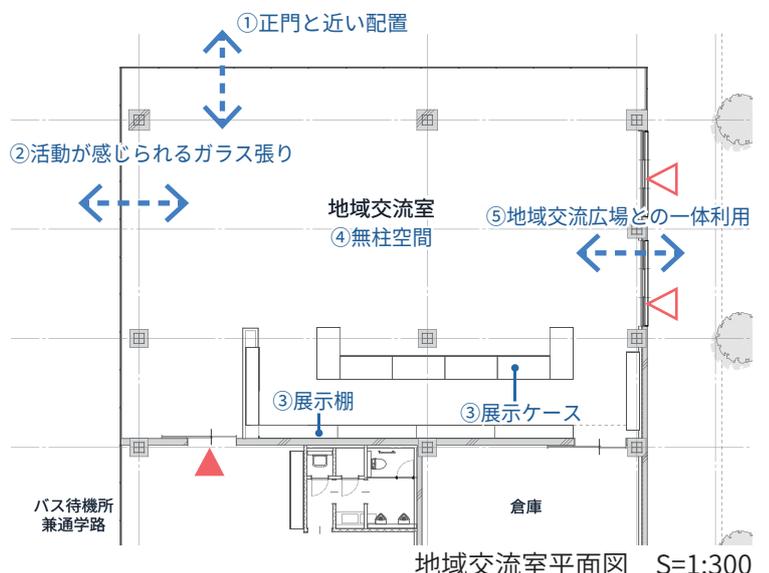
■ラーニング commons の計画

- 校舎中央のラーニング commons には2～3階に渡って書架を配置し、児童生徒が利用しやすい計画とします。
- 共用部から仕切りのない計画とすることで、授業時間以外にも気軽に図書に触れられる空間とします。
- 3階の小中交流スペースは天井が高く、吹抜けを介して下階ともつながる開放感のある空間とします。また仕上げ等で木質化を行い、木のあたたかみにあふれた空間とします。
- 低学年の読み聞かせスペースとしても利用できる小上りや、ベンチにも利用できる階段状のスペース、大人数での授業も可能な大空間など様々な環境を計画します。
- 図書の収蔵冊数は、学校図書館メディア基準に基づき、必要冊数以上を確保します。
- 南側の明るい空間に読書スペースを設置します。書架は直射光が当たらない配置とし、図書の日焼けにも配慮します。
- 司書が配置される場合も考慮して、図書カウンターは全体が見渡せる位置に配置します。



■新たな拠点づくり計画（地域交流室）

- ① 地域開放を行いやすく、また児童生徒が日常的に地域交流室に触れられるように、正門と近い北側に配置します。
- ② 地域交流室内での活動が児童生徒や地域の人に感じられるように3面（北、東、西）をガラス張りとしています。
- ③ 統合前の6校の資料を展示する展示スペースを設置します。
- ④ 大人数が集うことができるように、無柱空間を確保します。
- ⑤ 地域開放時に、地域交流広場との一体的な利用ができるような計画とします。
- ⑥ 学校運用時にも地域住民の利用が可能となるセキュリティ計画を検討します。





図書エリア 南側パース



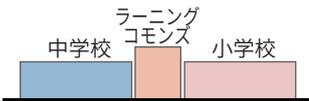
図書エリア 南側パース



地域交流室 パース

■立面計画

明快なボリューム構成



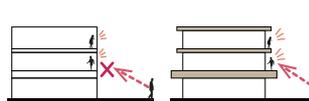
小中のゾーンを東西で明確に分けた構成とします。ラーニングcommonsは交流ゾーンとして小中をつなぎます。

水平基調



水平を強調するようなデザインとすることで、周辺の低層建物や田園風景の広がるのびやかな街並みに呼应させます。

テラス



テラスを設けることで子供たちの活動が建物の外側にも表出し、地域のにぎわいの創出に寄与します。

ラーニングcommons



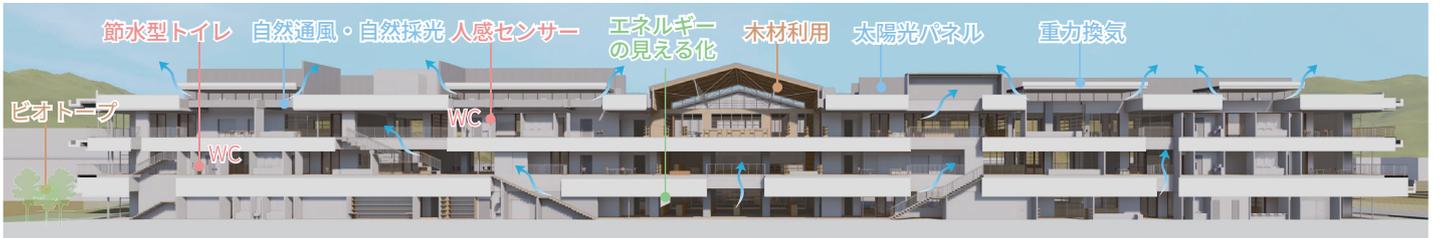
小中一貫校の中心となるラーニングcommonsを特徴的な形状として、児童生徒の原風景となることを目指します。



■環境配慮計画

脱炭素化に貢献する持続可能な教育環境の実現を目指し、省エネルギー化を行い、再生可能エネルギーの導入を積極的に行うことで、環境に配慮した学校とします。また、地域題材を生かした環境教育を通じて、環境保全への意識を高めると共に、地域やふるさとを愛する心を育みます。

環境負荷を減らす 空調負荷を減らす 照明使用量を減らす 使用水量を減らす	自然エネルギーを活用する 風・光を取り入れる 太陽光から電気を創る 雨水を活かす	エネルギーの見える化 エネルギー使用量を表示 エコ素材の使用	子どもたちに育むエコ教材 木材利用 ビオトープ、バルコニー緑化
--	--	---	--

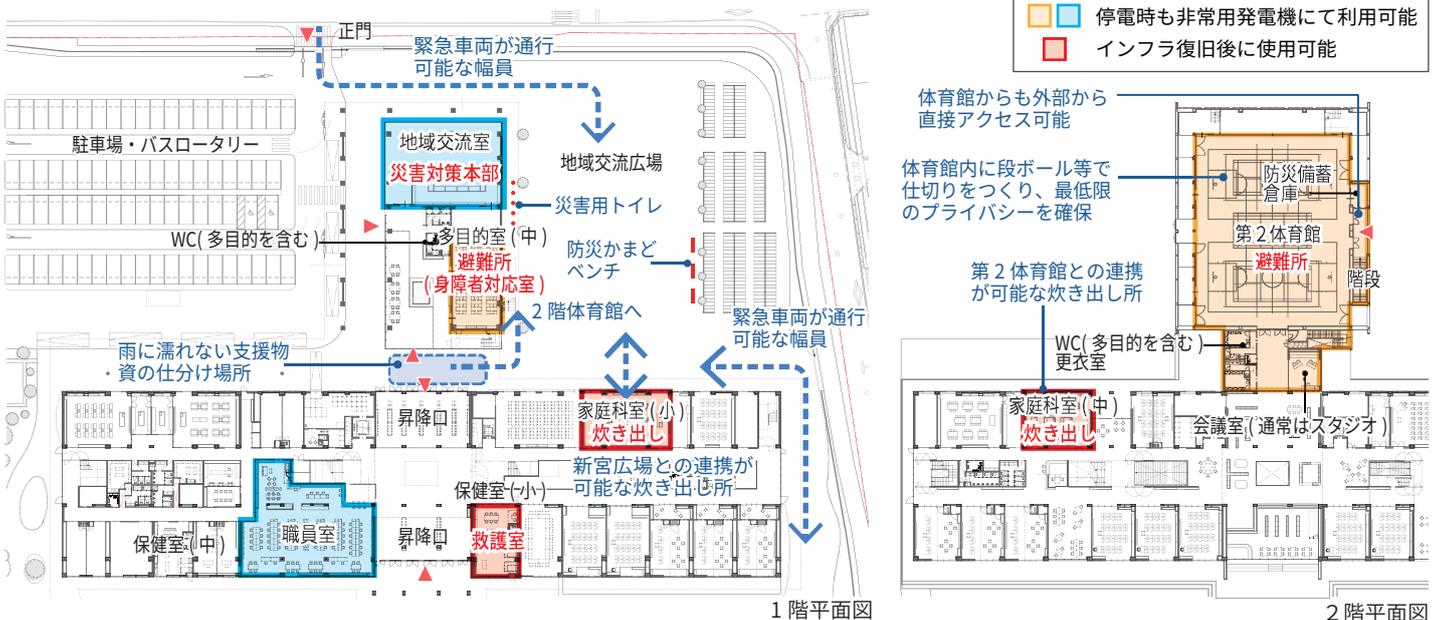


■災害対策

避難所としての考え方

- ・災害時には互いに助け合える地域社会の形成に貢献します。
- ・鉄筋コンクリート造を主要構造とし、耐震性能を確保します。
- ・体育館は一次避難場所となるため、停電時に空調や照明などが利用できるよう校舎側に非常用発電機とオイルタンク、太陽光発電設備、蓄電池を新設します。
- ・地域交流広場には災害用トイレや防災かまどベンチの設置を計画します。

災害時にも避難施設として安心して使用できる施設計画



■工事計画

	令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度		
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4
ステップ	ステップ1			ステップ2						ステップ3			ステップ4			ステップ5			ステップ6		
解体	▽既存校舎解体			▽既存体育館解体						▽仮設校舎解体						▽既存こども園解体			★完成		
造成・排水	▽既存スポーツセンター廻り造成・排水																				
部室・便所	▽部室・便所建設(6.0ヶ月)																				
改修	▽既存スポーツセンター改修(6.0ヶ月)																				
新校舎	▽新校舎建設(27.0ヶ月)																				
外構										▽I期工事			▽II期工事						▽III期工事		
こども園													▽新こども園建設(14.0ヶ月)								
引越等	▽仮校舎供用開始																				
備考										▽新校舎供用開始						▽新こども園供用開始					